

平成 29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	体験活動を通して児童館の友だちと交流を深める事業	
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人チルドレンズ・ミュージアム 安曇野市三郷明盛 2349-1	
事業区分	(2)保険・医療・福祉の充実に関する事業	
事業タイプ	ソフト	
総事業費	1,547,220 円	(うち支援金：1,206,000 円)

事業内容

・安曇野市内及び松本市内児童館で、学校では教えない生活に密着した不思議科学体験をさせることで、日常生活に興味を持つことを狙っている。また、受動的ゲームのように機能のみ楽しむ遊びではなく、自分で工夫したり、作る過程を大切にしたい工作教室を併催し、子どもたちの好奇心を喚起し達成感を感じてもらった。

・小学1年生から6年生にも分かりやすく、興味を満足させる切り口は、各児童館の子どもたちに圧倒的人气に支えられた。

・参加者数は、11回で約800人。体験型科学プログラムは、同じ重さの箱、どっちが重い？ 必殺輪抜き、どっちが強い！ 転んでまた起きてアナログロボット 他6展

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

・各学年の子どもたち同士の交流を深めたり、新しい友だちとの出会いの場となった。各児童館でアンケートを取ったが95%以上が「とても楽しかった、また、やりたい」「新しいことを学べた」等の回答を得ている。

・今までの児童館ではやったことがない事業内容であり、学校の事業を側面から補う機会として、有用であった。

・各児童館のスタッフの協力もあり、新しい児童館の取り組みとして、賛同していただいた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

・児童館の運営は、資金的に余裕が無いのが現状です。また、NPO法人も同様であり、事業効果が大変高いのですが、継続することに先が見えません。結局、補助団体を探しながら綱渡りで継続していくつもりです。



【会場写真】

【目標・ねらい】

- ① 友達との交流の場にします。
- ② 新しい友だちとの出会いの場にします
- ③ 科学の大切さを学ぶ場にします。

※自己評価 【 A 】

【理由】

・参加した子どもたちの反応がすべてを語っています。高揚した前向きな気持ちが随所に感じられました。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある